

# 最速 御殿場



## 初10分切り2時間9分29秒

第20回記念県市町対抗駅伝(静岡陸上競技協会・静岡新聞社・静岡放送主催、県、県教委、県体協共催)が30日、静岡市内で行われ、市の部は御殿場市が2時間9分29秒で2年連続4度目の頂点に立った。町の部は清水町が2時間17分13秒で初優勝した。御殿場市は4位でたすきを受けた吉田馨(東海大翔洋高)が首位に立ち、6区立田繁聡(陸自滝ヶ原)、7区馬場大翔(御殿場中)、8区森彩純(御殿場中)の4人連続区間賞で大きくリードを広げ、初めて2時間10分を切る過去最速の記録を打ち立てた。静岡市静岡が2年連続で2位に入り、3位は浜松市西部。清水町は4区伊藤夢山梨学院高が1分46秒の区間新記録をマーク。10区森野夏歩(ユニクロ)も区間賞の走りでトップを奪い、後続に約2分の差をつけた。吉田町が2位、函南町は3連覇を逃し3位だった。人口1万人未満の市町の1位に与えられるふぶくと賞は河津町が獲得。敢闘賞は、由布、御前崎市、藤枝市、伊東市、西伊豆町、川根本町が受賞した。

初の連続で歓喜の輪ができた御殿場市。2時間9分は大会20年の歴史の中でも初めて。区間賞は4人、出場した12人が区間10位以内と好走し、成長は確かだった。滝口監督は「一本三に布いっくいな年間うまくいったと謙遜するが、表情は自信に満ちていた。」



各区間賞の走りで連続に貢献した御殿場市の6区平田、静岡市清水区、吉田、御殿場市の7区馬場、全からたすきを受け走りだす8区森、静岡市清水区の第7中継所



首位に立った

5区吉田から4人連続区間賞

# 歴史的 独走

今年から第5中継所の変更に伴い、昨年より519mの距離が伸びた5区。吉田(東海大翔洋高)は「長い距離の方が自信がある」と冷静だった。トップの静岡市静岡と33秒差の4位でたすきを受け、最初から飛ばした。「スローペースの予定だったが、気持ちが高ぶった」と計画通りではなかったが、足は動いてきた。4・4区でトップに出る。「足が軽かった」と最後までペースは落ちなかった。夏頃に左膝を痛め苦しんだ17歳が、2年連続区間賞でチームを首位に押し上げた。

中学生も盤石な走りだった。昨年も区間賞だった7区馬場(御殿場中)は「区間記録を越すために出場した」と張り切り。序盤から後半まで速いペースで力強く押し切り、区間新をマークした。御殿場幼稚園時代から同級生の8区森(御殿場中)も、馬場がつらかったりで「馬場(の)ダブル区間賞を取らなかった」と、まさに狙い通りだった。

第20回記念大会前にスタート順20番を引き当てた滝口監督。昨年、監督就任1年目で優勝を体験し「持っていると言われるが、コーチや選手、応援してくれる御殿場市民のおかげ」と感謝は忘れない。馬場は「3連覇へ油断しないで練習を頑張りたい」と来年へ視線を向けた。(青木功太)

5区で静岡市静岡の大塚(左)を抜いてトップに立った御殿場市の吉田=静岡市葵区